

# 文化ウィーク実行委員会活動報告

外国語学部 国際文化交流学科  
2年 根本 莉沙  
2年 高橋 優太

神奈川大学文化ウィーク実行委員会です。私たちは、年に数回のイベントの運営を行なっています。昨年度は、キャンパス内でイベントを行うことができたが、今年度はコロナ禍の影響を受け、すべてオンラインで企画、運営を行うことになりました。

## 1. 普段の活動

以前までは大学に行き、お昼の時間に話し合っていました。今年度はZoomでの話し合いになりました。Zoomでの話し合いは、初めは慣れませんでした。今では問題なく行なうことができます。資料を基に話し合いを進め、メンバーの一人がWordでメモを取っています。その他にも、LINEやInstagram、Twitterの広報、ホームページの作成など、メンバーの一人ひとりが役割を持って、活動に参加しています。今年度はオンラインでの広報に力を入れました。よろしければ、各SNS・ホームページをチェックしてみてください。また、昼会時にはイベントの運営を進めるだけでなく、メンバー同士のコミュニケーションを取るため、ゲームや雑談などもしています。今年度はオンラインを活用したゲームを行いました。ゲームに熱中しすぎて、1時間以上遊び続け

ることも多々ありました。

文化ウィーク実行委員の普段の活動をする上で、多くの先生や、事務職員の方の協力が必要になります。そのため、連絡がとても大切です。今年度は特に大切になりました。この場をお借りして、委員会活動に協力してくださった全ての教員・事務職員の方々に、お礼申し上げます。このように、文化ウィーク実行委員会は、教員・事務職員の方とも関係が深く、イベントの運営の際には多くの応援をして頂いています。そのため、高校などの行事と比べるとより主体的に活動を行なうことができます。もし、この記事を読んで私たちの活動に興味が出ましたら、気軽にご連絡下さい。ここまでは、普段のイベントの運営に関わる活動などについて話しましたが、昼会以外にも1年



横浜中華街で食べたいちご飴



横浜中華街での食べ歩き

生の歓迎会やイベント終了後の打ち上げなど行なっています。今年も、1年生が入ってきてくれたため、コロナ対策をしながら、横浜中華街に出掛けました。中華街では、お店を見たり、肉まんを食べたりして、楽しみました。その後は、みなとみらいまで散策しながら1年生と交流をしました。この時撮った写真を使って動画を作成し、動画コンクールへの投稿もしました。先輩・後輩の

仲が良いのも文化ウィーク実行委員会の良いところ。



みなとみらい散策での一枚

## 2. Bunkademy Awards

2020年11月17日（火）から2021年2月8日（火）にかけて、文化ウィーク実行委員会初となるオンラインイベント『Bunkademy Awards』2020年、やり残したことありませんか？』を開催しました。例年は10月に『異文化交流フェスタ』、11月に『言語の祭典』という二つのイベントを開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で対面でのイベントが開催できなくなった為、オンラインで開催できるイベントを委員と顧問の先生方で一から考え、『Bunkademy Awards』とこの新規イベントを

開催することになりました。

この『Bunkademy Awards』は学生に自身の思いや主張を動画にして投稿し、その動画を教員や学生に審査と投票をして、その投票に応じて賞を贈呈するというイベントです。動画はその内容に応じて「メッセージ部門」、「文化・芸術部門」、「語学部門」の三つの部門と、特別枠として教職員の方々からの動画も募集し、合計で学生から12本、教職員から2本の動画を投稿して頂きました。メッセージ部門では留学生による異文化交流に関するメッセージ動画や、オスメの本を紹介する動画、2020年を振り返って自分の感じたことをまとめた動画など、自分の考えや思いをメッセージにした動画が投稿されました。文化・芸術部門では旅行や観光地での写真や動画をまとめた観光動画や、歌や楽器などの特技や趣味を披露する動画など、様々な文化や芸術を感じることができる動画が投稿されました。語学部門では英語版



公式ホームページ内での結果発表

の寿限無や英語のなぞなど、外国語を使った様々な興味深い動画が投稿されました。最後に教職員の動画では、先生のオンライン授業での授業風景や、お子さんの紹介動画など、学生では撮影できないような貴重な動画が投稿されました。

これらの全14本の動画は全て、投稿者それぞれの思いや主張、技術などがどれも特徴的で非常に面白い作品でした。今回の『Bunkademy Awards』の開催は投稿してくださった方々にとっては「自身の思いを一つの作品にして、自分以外の人々に共有する」という貴重な経験になったと思います。同様に、投票や審査をしてくださった方々にとっても「動画を観ることで、自分以外の人の思いや価値観を学ぶ」という貴重な経験になったと思います。また、委員会にとってもInstagramでの広報や公式ホームページの作成など、新しいことへの挑戦や成長のきっかけとなりました。来年度はどのような形でイベントを開催できるか未定ですが、どのような形であれ今年度の新しいイベント運営で学んだ知識や経験を活かして活動していきたいです。



Bunkademy Awards のポスター